

## 総務常任委員会行政視察研修報告書

総務常任委員会では、令和元年5月8日～10日の3日間の日程で徳島県鳴門市・岡山県倉敷市・兵庫県神戸市を視察してまいりました。参加者は、鈴木恒充委員長、若見孝信副委員長、大河原千晶委員、岡村浩雅委員、永井孝叔委員、渋井康男委員及び執行部職員1名、事務局職員1名です。

最初の視察先、鳴門市では「※1エコノミック・ガーデニング」について、翌日訪問した倉敷市では「※2ファシリティマネジメントの取組状況」について、また神戸市を訪問し、「人と防災未来センター」についてそれぞれ研修しました。

### ※1 エコノミック・ガーデニング

企業家精神あふれる地元の中小企業が活躍できるビジネス環境を創出し、地元企業を成長させることにより地域経済を活性化させる政策のこと

### ※2 ファシリティマネジメント

建物等を最適な状態で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法

## 徳島県鳴門市

### ○「エコノミック・ガーデニング」について

5月8日は徳島県鳴門市役所を訪問しました。

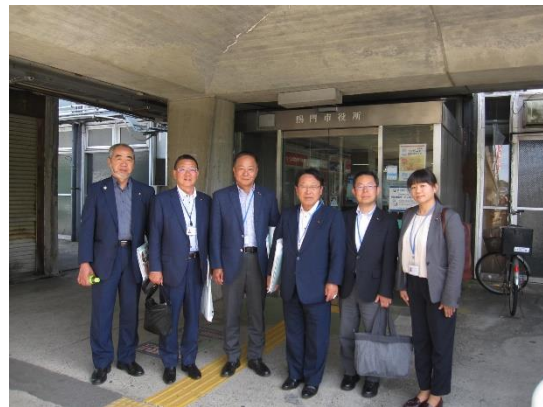
鳴門市は面積135.66平方km、人口57,394人。

鳴門市は四国の東部、徳島県の東北端に位置しており鳴門海峡をへだてて淡路島に対峙し、本州と結ぶ四国の東玄関をなしている。特に当市の北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地である。平成10年に神戸淡路鳴門自動車道が開通、さらに平成14年には高松自動車道が全線開通したことから、四国・本州の交流拠点都市として、恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業を展開するとともに、全国的にも高い評価を受ける「鯛」「ワカメ」「さつまいも」「塩」など数多い地域特産物の供給基地としての体制づくりを進めています。

エコノミック・ガーデニングの理念は企業家精神にあふれる、地元の中小企業が長生きして、繁栄するような、ビジネス環境を創出することだそうです。鳴門市は四国の関西方面からの玄関口であり関西四国方面また、空港に近く、東京に約1時間というアクセスの利便性、また海があり山もあり、川もあるという自然環境また、生活環境（衣食住）が整っていて、ITの活用した事業はもちろん、周辺地域への営業という面からも真剣に、四国、関西への販路を拡大したいという企業が検討している。自然環境に恵まれた地域であり、また、全国に知名度が高い鳴門海峡、鳴門の渦潮、など観光都市ということから1～4人の従業員数が一番多く、サービス業が全業種の65%を占めております。（平成26年7月1日現在）

そこでエコノミック・ガーデニング推進体制の取組みとして平成29年に準備会を経て、鳴門市中小企業施策検討委員会を立ち上げ経済団体・経営者・農家と行政・議員と市民団体NPOと金融機関、また学校研究者との連携を図り、異業種交流・情報共有を図り、また中小企業振興基本条例を作成し、中小企業の振興と地域経済活性化を図り、新商品・新サービスによる事業拡大を図っているということです。

#### 鳴門市 研修風景



#### 岡山県倉敷市

##### ○「ファシリティマネジメントの取組状況」について

5月9日は岡山県倉敷市役所を訪問しました。

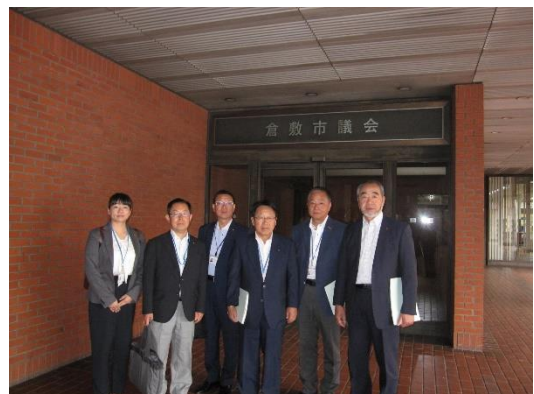
倉敷市は面積335.63平方km、人口482,061人。

岡山県下では県庁所在地で東に隣接する岡山市に次いで二番目の人口を擁し、岡山市や周辺自治体と共に岡山都市圏を形成している。倉敷川沿いの白壁の町並みが「美観地区」として保存されており、観光の街としての顔を持つ一方、市内における製造品出荷額（2016年）は3兆円超に上り、大阪市などと並び西日本を代表する工業都市でもある。

倉敷市は、平成29年2月1日に倉敷と児島と玉島の旧3市が合併して、50周年を迎え平成23年4月に長期修繕計画室を設置してファシリティマネージャー、建築技師・機械技師・電気技師の4名で建物点検をスタートし、公有財産すべての建物の現状を知ること、現状把握、経費削減、長期寿命化、意識改革、予防保全、マネジメントの一元化を図り、建物の維持保全を計画的に進め、そして建物、設備点検報告書及び各種マニュアルに基づき、職員自ら建物の点検をし、そしてタブレットの活用、ドローンの活用などにより、長期修繕計画を立てていく、そして維持管理費の削減としてESCO事業導入し、エネルギーコストを、削減しました。

また、さくら市と同じく、合併により同じ施設が2～3か所あり、将来、建物の解体、売却など難しい問題が山積みだそうでございます。また、倉敷市は倉屋敷があり、維持管理については、条例化し建物の補修修繕には補助金を出しており、建物は耐震化にはなっていないということです。

## 倉敷市 研修風景



## 兵庫県神戸市

### ○「人と防災未来センター」について

5月10日は兵庫県神戸市の「人と防災未来センター」を訪問しました。

神戸市は面積 557.02 平方km、人口 1,534,971 人。

神戸市は、海と山の迫る東西に細長い市街地を持ち、十分な水深のある扇状の入り江部に発展した理想的な港湾・神戸港を有する日本を代表する港町である。海運においても古くから盛んで、近代には世界の市場にその名を知られるほどに隆盛していった。以降も貿易・鉄鋼・造船・機械・製造・ゴム・真珠加工・観光等の産業を中心に発展、ファッション・医療・食料品などの産業も近年は盛んである。

1995年1月17日午前5時46分マグニチュード7.3の地震により6,400人を超える人命が失われました。実際、体験した谷川さんから、生の声を聞き、その中で災害時に一番大事なことは、地域の強いリーダーと水だそうです。その後館内に入り、様々な体験をし、また実際の映像などを見せていただき、すごく感動しました。そして、災害の教訓を生かした総合的なシンクタンクを目指しており、また、防災減災に対するマニュアルを作成し、市民一人ひとりが防災グッズを備え、災害に強いまちづくりに取り組んでいるということです。

#### 神戸市 研修風景



以上、総務常任委員会は、徳島県鳴門市、岡山県倉敷市、兵庫県神戸市の3市について行政視察を実施しました。エコノミック・ガーデニング、ファシリティマネジメントの取り組み、人と防災未来センターでの地域防災力の向上など、さくら市としてこれから取り組んでいくべき事業への参考となる、大変貴重な行政視察となりました。